

# “美心(ちむぐる)”



独立行政法人国立病院機構

# 沖縄病院

〒901-2214

沖縄県宜野湾市我如古3丁目20番14号

TEL:098(898)2121

FAX:098(898)6433(地域連携室直通)



2018年(平成30年)8月 NO.96 発行地域連携室



## 空気を読む



国立病院機構沖縄病院  
副院長 大湾 勤子

2018年8月を迎え、暦の上では秋！月並みですが時の経つのは早いものだと感じています。いつも連携して下さっている皆様のご協力ありがとうございます。

沖縄病院は、2月28日に、入院室、手術室、薬剤科、リハビリ科が新病棟に移動し、新たな環境で診療を続けています。旧病棟を知っている患者さんやご家族からは、「きれいな施設で快適になった」と伺いますが、「広すぎて迷ってしまう」という声も聞かれます。実は病院スタッフも、きれいになった一方、広いため動線が長く移動量が増えたと感じているようです。この際、病院内で「ウォーキング！」と気持ちを切り替えて仕事に運動に取り組んでもらっています。私事です専ら階段昇降を心がけることで、日頃の運動不足を補っています。病室に辿り着くと息が上がっている私に、「先生大丈夫？」と気遣っていただき、どっちがどっち？という感じです。

さて、距離というものは、物理的なものだけではなく、心理的にも様々な場面で効果をあたえます。たとえば病気の診断のために入院している患者さんに、検査の説明や症状で気になっていることをお尋ねする時など、医療者の接遇がその後の治療や生活に影響を及ぼすことがあります。接するときに、近すぎず遠すぎない、程よい距離感が大切ですが、案外難しいと日頃感じます。「距離感をつかむ」を別の表現で言うと「空気を読む」ことになると思います。空気を読むためには、相手に敬意を払い、傾聴することが大切だと考え、その様に心がけるようにつとめています。私ども沖縄病院が地域の皆様とよい連携を継続させていただくために、ぜひとも忌憚のないご意見をお聞かせください。「空気を読める」病院になれるように頑張っていきたいと思っております。

新病棟の非常階段にて

本日も6階

制 覇！



### 基本理念

患者さまの立場を尊重し  
高度で良質の医療を提供します

### 運営方針

1. 政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
2. 患者様の視点に立った、あたたかく思いやりのある接遇
3. 健全な経営基盤の確立
4. 安心して療養に専念できる快適な環境
5. 臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実



GINOWAN CITY FM 81.8Mhz  
ぎのわんシティFM

毎週月曜日9時30分から当院職員による病気に関する様々な情報をラジオ放送しております。当院HPにも放送内容を掲載していますのでご覧ください。



# おやかわクリニック

- ◆診療科目 / 内科・胃腸科・呼吸科・循環器科・胃癌・大腸健診
- ◆所在地 / 宜野湾市長田1-29-1
- ◆電話番号 / 098-893-5511
- ◆休診日 / 木曜日午後、日曜・祝祭日、旧盆(ウケイ)、年末年始

## ◎受付・診療時間

	月	火	水	木	金	土
午前	9時～12時					
午後	2時～6時			休診	2時～6時	2時～5時

沖縄病院と連携していただいている医療機関をご紹介します



院長 親川 富憲 先生

宜野湾市長田に開業しています「おやかわクリニック」です。当クリニックでは主に胃癌や大腸癌の検診・精密検査などの消化器疾患を中心に診療をしており、胃カメラや大腸カメラ検査も患者様へなるべく苦痛を与えない様に心掛けています。その他に高血圧や糖尿病・生活習慣病など内科全般の診療および特定健診や健康診断などの検診も行っており、患者様が家庭的な環境で診療が受けられるよう職員一同いつも笑顔で頑張っています。

地域に根ざし、地域の皆様に愛され、信頼されるクリニックを目標に開業してから、早21年がたちました。これもひとえに地域の皆様に支えられてここまで続けられたような気がします。

沖縄病院とのつながりも21年となり、当クリニックの患者様も多くの方がお世話になっており、開業医としてはとても頼もしく感じています。これからも地域のために病診連携をより深めていきたいと思っております。

## 気管支鏡検査について



呼吸器内科医長  
知花 賢治

気管支鏡検査は気管支、肺疾患における診断を目的とし、病理検査、細菌検査などを行います。気管支鏡は5-6mmの細い管で、上部消化管内視鏡と比べて細く、最近はこちらに細い気管支鏡もあり、検査の内容によって使いわけています。気管支鏡検査は、検査前にドカインで喉頭、気管内の麻酔を行います。この麻酔を行うことで、楽に気管支鏡が喉頭から気管に挿入できるようになります。気管支鏡は通常経鼻挿入で行います。以前は経口挿入で行っていましたが、経鼻の場合は反射が少なく、検査中でも痰や唾液などを口腔内から出したり、吸引も簡単にできます。また、患者さんも経口挿入と比較して呼吸しやすくなると思います。検査中は鎮静剤を使用しています。鎮静剤を使用することで苦痛を軽減し検査を行うことができます。

検査後は、1泊入院を原則行っています。理由としては、病理検査などを行った場合、病変のある部位の検査は出血することがあり、また検査後に発熱したり、頻度は低いものの呼吸器症状の変化を起すことがあり経過観察の必要があるからです。気管支内観察のみの場合は日帰りでの検査も症例によっては可能です。

当院では数年前から、ガイドシースを用いた気管支腔内超音波断層法:EBUSを行っています。超音波プローブにガイドシースを用いて、肺の末梢病変や小さい病変に対してEBUSで病変を確認した後、超音波プローブを抜き、ガイドシースに生検鉗子を挿入して病理検体を採取しています。病変を確認しながら行うため、診断率が向上しており、臨床現場で広く使用されています。沖縄病院では気管支鏡検査を呼吸器内科、呼吸器外科で行っており、1年間に約300件と県内でも多くの患者さんに検査をしていますので、安心して検査を受けることができます。胸部X線写真、胸部CTで異常な陰影があり、気管支鏡検査の適応かどうか悩んでいる患者さんがおられましたらいつでも気軽にご紹介ください。



## 整形外科医師紹介



琉球大学医学部附属病院  
整形外科 當銘 保則

平 29 年 4 月より、火曜日の午前に整形外科外来を担当させていただいております琉球大学整形外科の當銘保則です。主に「骨・軟部腫瘍」を担当させていただいています。

骨腫瘍・軟部腫瘍とは皆さんにとって、聞き慣れない言葉かもしれません。骨腫瘍は骨から発生する腫瘍の事です。発生年齢は、小学生等の若年から中高年まで幅広く発生する可能性があります。中高年で発生する骨腫瘍の場合は、癌の骨転移を生じている可能性があります。長引く痛みがある場合は注意が必要で、整形外科でレントゲン検査などの画像検査を受けましょう。



軟部腫瘍は、皮膚の下や筋肉内に発生する腫瘍です。軟部腫瘍の診断は、MRI 検査が有用です。痛くないから大丈夫との自己判断で、病気がすすんでから受診される方もしばしば見受けられます。しかし、悪性でも感覚神経に近くない場合は、痛みがないことがほとんどです。稀な病気ですが、月単位で大きくなる腫瘍（しこり）は悪性の可能性もあるため、注意が必要です。

沖縄病院の外来では、主にレントゲン、CT、MRI 検査などの画像検査や、必要に応じて生検検査、良性腫瘍を中心に手術も行っています。気になるしこりがある場合は、躊躇せずに外来受診していただくと幸いです。平成 30 年 4 月からは、木曜日の午前も喜友名医師による整形外科外来が増設されましたので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



## 西病棟 イベント

琉球ゴールデンキングスが  
きたあ——



6月29日に西1・2病棟の療養介護契約者で構成される自治会の主催イベントとして「アトラクション」が開催されました。アトラクションは2部構成で企画し、第1部では琉球ゴールデンキングスの金城茂之選手が慰問に来てくださいました。地元でも有名な金城選手。参加者のなかにはキングスの大ファンという方もたくさんいらっしゃって、キングスの選手が来ると決まった時から病棟内は大興奮でした。ご自分では話下手とおっしゃっていた金城選手でしたが、事前に準備していた質問以外のプライベートな質問を投げかけられても、気さくにユーモアたっぷりの回答を返してくださいました。ドリブルやシュートフォームが見たいというリクエストにも応えていただき、会場はとでも盛り上がりました。

第2部では、以前当院に入院していらっしゃった謝花勇武さん(Constant Glowth ボーカル)に歌を披露していただきました。オリジナル曲「さくらはまだか」の熱唱を聴いてハンカチで目頭を押さえている参加者もいらっしゃいました。一緒に病棟で生活を共にしていた参加者からは「歌声が衰えていない」「声量がすごい」といった賞賛の声が上がりました。歌声同様、以前から定評のあったトークに対しても、会場からは「さすが」の声。とても楽しい時間を過ごすことができました。当院療養介護病棟では、病棟内での月ごとの行事に加え、西1, 2病棟合同での行事を行っています。今回のイベントは会場や運営費の都合で療養介護契約者のみを対象としましたが、10月26日(金)に予定しております「秋祭り」は地域の皆さまどなたでもご参加いただけますので、ぜひ遊びに来てください。



## 第2回 沖縄病院 看護実践講座

# 認定看護師交流会

2018年8月1日に琉球大学付属病院 棚原 陽子緩和ケア認定看護師・沖縄赤十字病院 新城 圭一慢性呼吸器看護認定看護師・国立病院機構沖縄病院 谷村 久美感染管理認定看護師の3名をお招きして交流会を開催いたしました。シンポジウムでは、3名の先生から実践活動報告と、地域における認定看護師の役割について意見交換を行いました。参加者の中には、認定看護師を目指す方もおり、具体的な実践活動を知り「自分の進む道をしっかりと定めることが出来ました」と目標を明確にできたという言葉もありました。各分野の認定看護師の実践・指導・相談という大きな役割の中で、困難に感じている事や、やりがいを感じる場面など多くの経験の中で培ってきた貴重な話を聞くことが出来、専門的な視点で患者や家族に介入する事で、質の高い看護を提供出来ている事を改めて感じる時間となりました。

地域包括ケアが推進され、医療や看護のニーズは住み慣れた地域に求められる中、認定看護師も地域に向け看護の質の向上の為に働きかけなければいけないことを確認する事が出来ました。沖縄病院では「がん化学療法認定看護師」「皮膚・排泄ケア認定看護師」「摂食嚥下認定看護師」の3名が新たに認定看護師として誕生し認定看護師が合計6名となり、今後はさらに地域医療機関との連携を強化していきたいと思っております。



棚原陽子緩和ケア認定看護師



新城圭一慢性呼吸器看護認定看護師



谷村久美感染管理認定看護師

## ふれあい看護体験

21世紀の高齢社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人一人が分かち合うことが必要です。こうした心を、老若男女を問わずだれもが育むきっかけとなるよう、日本看護協会では「看護の日・看護週間」として「ふれあい看護体験」を行っています。

当院でも、2018年7月25日に県内の4つの高校から、将来看護職を目指す19名の高校生が看護体験を行いました。心臓や呼吸の音を聞いたり、シーツ交換や車椅子操作など看護の仕事を実験しました。高校生達は、足浴などのケアや患者さんとのコミュニケーションの中で、感謝の言葉をかけられる場面があり、「患者さんの笑顔を見ると、自分まで幸せな気持ちになれた」「やりがいのある仕事と実感した」「看護師になりたい」との言葉が聞かれました。

看護を目指すキラキラした瞳に、私たち看護師も初心に戻ることが出来ました。

